第 27 講
ルネサンス・宗教改革

1

【ルネサンス】16 世紀アンリ２世の頃のフランスにル＝ネートル（フランス語で再び生まれる）という言葉が登場した。この言葉を 19 世紀のスイスの歴史家 (1)〔　　〕が『**イタリア＝ルネサンスの文化**』で概念としてのルネサンスとして確立した。

(2)〔　　〕という言葉がある。西欧における知の復興運動のことでシャルトルやパリなどの司教座（しきょうざ）付属の自由学芸教育の活性化から始まった。例えばローマ法への関心が高まり (3)〔　　〕大学で (4)〔　　〕教育が盛んになった。スペインの (5)〔　　〕らやシチリア島の (6)〔　　〕ではアラビア語の文献がラテン語に翻訳された。コルドバの (7)〔　　〕（ラテン名**アヴェロエス**）が解釈したアリストテレス哲学がラテン語に翻訳されカトリックの教義と融合し，(8)〔　　〕世紀に (9)〔　　〕の『(10)〔　　〕』が成立し (11)〔　　〕が大成した。

中世ヨーロッパを精神的に支配したのが教会だが，教会の価値観とは違うものを模索したのがルネサンスだ。ギリシア・ローマの古典古代にそれを見出した。人間中心の価値観だ。端的に表れているのが絵画における (12)〔　　〕だ。人間を中心に描き始めた。無論，神の存在を否定しているわけではない。(13)〔　　〕は『**人間の尊厳について**』で神が人間に自由意志を与えたと論じ，自由意志により天使にも悪魔にもなれると言った。16 世紀『(14)〔　　〕』を著した (15)〔　　〕は自由意志を肯定し自力救済を可能としたが，(16)〔　　〕は自由意志を認めず人間には原罪があるから神の恩寵（おんちょう）が必要だと主張した。

【フィレンツェ】13 世紀に (17)〔　　〕に生まれた (18)〔　　〕は (19)〔　　〕語（イタリア語）で『(20)〔　　〕』を書き，ラテン語カトリック世界に対する新たな世界への扉を，さらには将来の国民国家形成への道を開いた。14 世紀の (21)〔　　〕は『(22)〔　　〕』で教会のミサで知り合った貴婦人への想いをイタリア語の叙情詩に託した。その親友，(23)〔　　〕は『(24)〔　　〕（10 日物語）』でペスト禍の (25)〔　　〕での男女 10 人の暴露話を著し人間の欲望を肯定的写実的に描いたが，これは中世の終焉を告げる記念碑的作品となった。

1378 年に (26)〔　　〕という毛織物職人の労働争議が起きた。

解答

（1）ブルクハルト　（2）12 世紀ルネサンス　（3）ボローニャ　（4）法学
（5）トレド　（6）パレルモ　（7）イブン＝ルシュド　（8）13
（9）トマス＝アクィナス　（10）神学大全（しんがくたいぜん）　（11）スコラ哲学　（12）遠近法
（13）ピコ＝デル＝ミランドラ　（14）愚神礼讃（ぐしんらいさん）　（15）エラスムス　（16）ルター
（17）フィレンツェ　（18）ダンテ　（19）トスカーナ　（20）神曲（しんきょく）　（21）ペトラルカ
（22）カンツォニエーレ　（23）ボッカチオ　（24）デカメロン　（25）フィレンツェ
（26）チョンピの乱

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ダンテの親友の(27)〔　　〕はフィレンツェ近郊の生まれでチマブエの弟子らしい。フィレンツェ派絵画の基礎を築きイタリア＝ルネサンスの道を開いた。『聖(せい)フランチェスコの生涯(しょうがい)』が代表作。

ジョットーから造形技術を学んだのが15世紀の(28)〔　　〕。マサッチオの代表作はフィレンツェのサンタマリア＝デル＝カルミネ聖堂の『楽園追放(らくえんついほう)』。マサッチオはブルネレスキからは遠近法を学んだ。

(29)〔　　〕はフィレンツェのドゥオモ，(30)〔　　〕を設計した人物だ。またマサッチオは人体の構造は(31)〔　　〕から学んだ。精緻な人体研究の成果がドナテルロの『(32)〔　　〕』だ。ミケランジェロのものと間違えないでね。

フランス王(33)〔　　〕のイタリア侵入（イタリア戦争）によりメディチ家が追放された後，神秘主義者の修道院長(34)〔　　〕が禁欲的狂信的な改革をしたが，それに影響され自らの作品を広場で焼き画家として自滅し宗教家として余生を過ごしたのが，『(35)〔　　〕』『(36)〔　　〕』の作者(37)〔　　〕。

サヴォナローラの神権政治の後外交官として活躍したのが(38)〔　　〕。彼の著作『(39)〔　　〕』(1513年）のモデルは教皇(40)〔　　〕の庶子(しょし)チェーザレ＝ボルジアで，混乱期のイタリアを統一する君主にライオンの力と狐の狡猾(こうかつ)さを求め政治を倫理・道徳と切り離す徹底した現実主義を示した。

サヴォナローラの権力期に逃れていたのが(41)〔　　〕。代表作はローマのバチカン・(42)〔　　〕大聖堂にある「ピエタ」と(43)〔　　〕にある「(44)〔　　〕」。ボッティチェリの友人が(45)〔　　〕。ルネサンスが理想とした万能人（普遍人）の典型だ。「(46)〔　　〕」がパリの(47)〔　　〕美術館にあるのは，フランス・ヴァロワ朝の(48)〔　　〕がパリに招いたから。出身村のヴィンチ村はフィレンツェ近郊。

二人の影響を受け聖母子像を描き37歳で急逝(きゅうせい)したのが(49)〔　　〕。彼の叔父の(50)〔　　〕は1506年に教皇(きょうこう)(51)〔　　〕世からバチカン・(52)〔　　〕の修築を命じられ，事業はミケランジェロ，ベルニーニに受け継がれ17世紀に完成した(53)〔　　〕の傑作となった。

【イタリア＝ルネサンスの背景】①ギリシア・ローマ古典古代の文化遺産が多くあることと中世の大学の人文学部での古典研究がなされた。②十字軍・東方貿易を通じてイスラーム世界と接触した。③ビザンツ帝国の滅亡（1453年）を通じて古典文化が流入した。④東方貿易の発展で都市が勃興，新興市民階級が台頭し中世の閉塞(へいそく)感から脱却する気運。⑤教皇や都市の富豪が学芸を保護・奨励した。⑥政治的統一が不在で，新たな価値観が芽生え易く有能な人材に活躍の場があった。

解答

(27) ジョットー　(28) マサッチオ　(29) ブルネレスキ
(30) サンタマリア＝デル＝フィオーレ大聖堂　(31) ドナテルロ　(32) ダビデ
(33) シャルル８世　(34) サヴォナローラ　(35) 春(はる)　(36) ヴィーナスの誕生(たんじょう)
(37) ボッティチェリ　(38) マキャヴェリ　(39) 君主論(くんしゅろん)　(40) アレクサンデル６世
(41) ミケランジェロ　(42) サン＝ピエトロ　(43) システィナ礼拝堂
(44) 最後の審判(さいごのしんぱん)　(45) レオナルド＝ダ＝ヴィンチ　(46) モナリザ　(47) ルーブル
(48) フランソワ１世　(49) ラファエロ　(50) ブラマンテ　(51) ユリウス２
(52) サン＝ピエトロ大聖堂　(53) ルネサンス様式

第 27 講　テスト①

1　ローマ法の法学教育で有名な大学は。

①　サレルノ大学
②　ナポリ大学
③　ボローニャ大学
④　プラハ大学

2　ダンテは『神曲』を何語で書いたか。

①　ギリシア語
②　ラテン語
③　ヘブライ語
④　トスカーナ語

3　イタリア戦争は，どのフランス王のイタリア侵入で始まったか。

①　シャルル７世
②　シャルル８世
③　アンリ２世
④　フランソワ１世

4　レオナルド＝ダ＝ヴィンチをフランスに招いたフランス王は。

①　シャルル７世
②　シャルル８世
③　アンリ２世
④　フランソワ１世

5　正しくない組み合わせは。

①　ファン＝アイク兄弟 ― フランドル絵画，油絵画法
②　デューラー ― ドイツの画家・版画家「四人の使徒」
③　ブリューゲル ― フランドルの「農民画家」
④　ラブレー ―「エラスムス像」，ヘンリ８世の肖像画

第 27 講　テスト①解答

1　③　　2　④　　3　②　　4　④　　5　④

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

2

【ルター】ローマ教皇レオ 10 世はローマのサン＝ピエトロ大聖堂の修築費用の調達を思案した。分裂状態だったのでローマ教会の搾取の対象となっていた（「ローマの牝牛」）ドイツで (1)〔　　〕（免罪符（めんざいふ））販売を強化したことにたいし，(2)〔　　〕年に (3)〔　　〕が (4)〔　　〕教会に「(5)〔　　〕」をはりつけ抗議し宗教改革がはじまった。

ルターは使徒 (6)〔　　〕の教説に依拠（いきょ）し「人は信仰によってのみ救われる」ことを強調し『(7)〔　　〕』を著して (8)〔　　〕義認説を展開した。

ハプスブルク家の神聖ローマ皇帝 (9)〔　　〕（スペイン王カルロス１世）は，(10)〔　　〕でルターに自説撤回を命じたが応じなかったので，法律の保護外に置いた。ルターは (11)〔　　〕による善意の誘拐（ゆうかい）により (12)〔　　〕城で (13)〔　　〕した。これは (14)〔　　〕がギリシア語とラテン語双方により作成したものを翻訳したものである。

その影響で騎士戦争や (15)〔　　〕指導の (16)〔　　〕が起きたがルターは態度を変えこれらの戦争を支持しなかった。１世紀にパウロは「クリスチャンは上位の権威に従うべきだ」と言った。上位の権威とは 16 世紀のドイツの農民にとってはハプスブルク家ということになる。

同時期，フランスのヴァロワ朝は (17)〔　　〕の時代だった。彼は (18)〔　　〕をパリに招き「フランス・ルネサンスの父」と呼ばれた王である。(19)〔　　〕世に始まるイタリア政策とイタリア戦争を継続し，神聖ローマ皇帝の選挙に立候補するなど（ヘンリ８世も立候補した）精力的な人物でカール５世と対立した。

ドイツの領邦君主（諸侯）が，最高の司教として領内の教会の保護支配権を掌握する制度を (20)〔　　〕という。それはルター主義の導入によって確立した。つまりルター派諸侯ができあがったのだ。

カール５世は，オスマン帝国の (21)〔　　〕世が (22)〔　　〕年に (23)〔　　〕を敢行すると諸侯にルター派を一度認めた。しかし，スレイマン１世が寒冷と兵糧（ひょうろう）不足のために退却すると再びルター的信仰を禁じたので，ルター派諸侯はプロテスト（抗議）し (24)〔　　〕年 (25)〔　　〕を結成した。1535 年の (26)〔　　〕でフランソワ１世はスレイマン１世に臣下の礼をとり，(27)〔　　〕というオスマン帝国内の通商や旅行の特権（治外法権）が慣習化した。

解答

（１）贖宥状　（２）1517　（３）ルター　（４）ヴィッテンベルク　（５）九十五ヵ条の論題
（６）パウロ　（７）キリスト者の自由　（８）信仰　（９）カール５世
（10）ヴォルムス帝国議会　（11）ザクセン選帝侯フリードリヒ　（12）ヴァルトブルク
（13）新約聖書をドイツ語に翻訳　（14）エラスムス　（15）ミュンツァー　（16）農民戦争
（17）フランソワ１世　（18）レオナルド＝ダ＝ヴィンチ　（19）シャルル８
（20）領邦（りょうほう）教会制　（21）スレイマン１　（22）1529　（23）第１次ウィーン包囲
（24）1530　（25）シュマルカルデン同盟　（26）フランス＝トルコ同盟
（27）カピチュレーション

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【スイスの宗教改革】スイスの (28)〔　　〕では (29)〔　　〕が宗教改革を開始したがルターと教義面で決裂し失敗した。(30)〔　　〕では (31)〔　　〕が宗教改革を断行，政教一致の神裁政治を行った。カルヴァンの著作はバーゼルで出版した『(32)〔　　〕』。信仰の基準を聖書に置く (33)〔　　〕主義。模範的信者が監督となる (34)〔　　〕制度。万人祭司（ばんにんさいし）主義は新教諸派に共通する考えだ。カルヴァン派はフランスでは (35)〔　　〕（幽霊），イングランドでは (36)〔　　〕（清教徒），スコットランドでは (37)〔　　〕（長老派），ネーデルラントでは (38)〔　　〕（乞食）と呼ばれた。

解答

（28）チューリヒ　（29）ツヴィングリ　（30）ジュネーヴ　（31）カルヴァン
（32）キリスト教綱要（こうよう）　（33）福音（ふくいん）　（34）長老　（35）ユグノー　（36）ピューリタン
（37）プレスビテリアン　（38）ゴイセン

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第 27 講　テスト②

1　以下のうち，カトリック教会における監督制度は。

①　司教主義
②　万人祭司主義
③　長老主義
④　福音主義

2　正しくない組み合わせは。

①　ルター — ヴィッテンベルク
②　ツヴィングリ — チューリヒ
③　カルヴァン — ジュネーヴ
④　ミュンツァー — パリ

3　ルター関連の出来事のうち３番目にくるのは。

①　ヴォルムス帝国議会
②　九十五ヵ条の論題
③　『新約聖書』のドイツ語訳
④　ドイツ農民戦争

4　正しくない組み合わせは。

①　ヘンリ８世 — 首長法
②　カール５世 — イタリア戦争
③　エリザベス１世 — 統一法
④　フランソワ１世 — シュマルカルデン同盟

第 27 講　テスト②解答

1　①　　2　④　　3　③　　4　④

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。